



## 第16回 全聖公会中央協議会 決議文



ACC (Anglican Consultative Council) -16

Lusaka, Zambia

2016年 4月 8日～19日

## 第 16 回 全聖公会中央協議会 決議文 ( ACC-16 Resolutions )

### A. 宣教の指標

- 決議 16.01 弟子養成
- 決議 16.02 教会と社会における女性・男性
- 決議 16.03 男女平等と公正
- 決議 16.04 国連女性地位委員会へ派遣した聖公会代表の声明
- 決議 16.05 ジュネーブとニューヨークの国連機関への代表者派遣
- 決議 16.06 全聖公会家族ネットワーク
- 決議 16.07 聖公会ルソフォニア（ポルトガル語圏）ネットワーク
- 決議 16.08 地球気候変動への応答
- 決議 16.09 絶望からの脱出：艱難のなかでの希望
- 決議 16.10 聖公会の諸宗教対話
- 決議 16.11 インダバの継続
- 決議 16.12 聖公会支援機構

### B. 一致、信仰、職制

- 決議 16.13 聖公会とメソジスト教会の関係
- 決議 16.14 聖公会と正教会東方諸教会の関係
- 決議 16.15 聖公会と正教会の関係
- 決議 16.16 宗教改革500周年記念
- 決議 16.17 義認の教理に関する共同宣言
- 決議 16.18 聖公会とルーテル教会との関係
- 決議 16.19 叙任奉仕職の相互受け入れ
- 決議 16.20 宣教に形づけられた聖公会
- 決議 16.21 聖公会の機関：賜物、道標、受託責任
- 決議 16.22 福音派およびペンテコステ派教会との対話の可能性
- 決議 16.23 聖書翻訳と改定
- 決議 16.24 共に歩む

## C. 統治

- 決議 16.25 安全を確保する教会協議会
- 決議 16.26 全聖公会教会安全憲章
- 決議 16.27 奉仕職への適性開示に関する議定書
- 決議 16.28 安全を確保する教会と2020年ランベス会議
- 決議 16.29 情報伝達
- 決議 16.30 翻訳
- 決議 16.31 全聖公会中央協議会の戦略計画
- 決議 16.32 セイロン教会
- 決議 16.33 全聖公会の二酸化炭素排出量の削減
- 決議 16.34 聖公会青年ネットワーク
- 決議 16.35 全聖公会中央協議会青年代表
- 決議 16.36 全聖公会中央協議会における指導の継続性と活性化の確保
- 決議 16.37 全聖公会事務所およびランベス会議の資金
- 決議 16.38 アングリカン・コングレス

## D. 連帯

- 決議 16.39 ブルンディとの連帯
- 決議 16.40 南スーダン支援
- 決議 16.41 聖公会南アフリカ管区への支援
- 決議 16.42 パキスタンとの連帯
- 決議 16.43 アシア・ビビ
- 決議 16.44 全聖公会中央協議会定款条項
- 決議 16.45 謝辞

## A. 宣教の指標

### 決議 16.01 弟子養成

ACC（以下全聖公会中央協議会あるいは本協議会）は、

1. 聖公会の信仰の明確化の核となったグループが過去6年間に成し遂げた課題、特に、イエスの弟子養成が進展した働きに感謝する。
2. 福音の光に照らしつつ、神学的な緊急の課題として、アングリカンコミュニオン（以下全聖公会）のすべての管区、教区、教会が弟子養成のための目的を明確化して必要な材料をそろえることが、イエス・キリストの新たな弟子を得るために、全教会にとって有効に働くと認識している。
3. ACC16、17、18の期間、弟子養成活動が効果をあげるよう、全聖公会中央協議会常置委員会（以下常置委員会）が、全聖公会事務総長（the Secretary General of Anglican Communion・以下事務総長）や宣教部門と協力しながら作業を推進し、ACC17で進捗状況の中間報告をするよう要請する。
4. 全聖公会の学びのため、弟子育成を目的とした「キリスト者の生活とその姿の聖公会の指針」報告書の作成を求める。

### 決議 16.02 教会と社会における女性・男性

本協議会は、少女・少年、女性・男性が共に生き、共に働くなかで社会的な力をつけることがキリスト者の愛の価値、尊厳、公正を指し示すことになるが、以下に述べる項目を全聖公会の管区が継続して実施するよう促す。

- ・ 害を及ぼす性の基準や文化的慣習、不公平な力関係について、啓発活動を促進すること。
- ・ 男性・女性間の正当な関係性のモデル化や、両者が影響する分野のなかで性の平等を推進し、あらゆる形態の性暴力と戦い、それを終わらせるように導くために責任を負う教会指導者を励まし、支援すること。
- ・ 教会や社会で、女性と少女が、与えられた能力や賜物を生かすことを妨げる仕組みを変革すること。
- ・ 女性・少女たちと同様、男性・少年が大いに興味を引き付けられる、正当で公平な性の関係を探求し、その定義の見直しを図ること。
- ・ 洗礼・堅信、結婚の準備を実施する教会の働きや、礼拝や聖書研究が、神から与えられた尊厳とすべての人々の状況について、正当な関係と世代間の学びの推進にどのように貢献が可能かを調べること。

### 決議 16.03 男女平等と公正

本協議会は、

1. 決議 ACC 13.31とACC 14.33の通り、意思決定機関へ平等なかたちで女性が参与できることを再確認し、決議 ACC15.07とACC 15.10に基づき、あらゆる形態の性暴力や家庭内暴力および人身売買廃絶を求める。
2. 神にかたどって等しく創造された女性と男性という、キリスト教信仰を反映する男女関係を堅守する。

3. 性の平等への挑戦を主眼としたメッセージを全聖公会に発信し、それが励みとなって進展していることを称賛する。
4. 「性の平等を達成し、女性と少女すべてを力づける」国連の持続可能な発展目標 #5 を支持する。
5. 聖公会の指導者と全聖公会協議会へのIAWN 南アジア協議会の書簡 “Report of the Anglican Communion Safe Church Network (全聖公会、教会安全確保ネットワーク 報告書)” を歓迎し、管区すべてがこれに注目し、行動を起こすことを推奨する。
6. 全聖公会管区が
  - ・ 上記の決定を採択する。
  - ・ 「国際聖公会女性ネットワーク (the International Anglican Women's Network)」と協働し、可能であれば財政的支援を実施して、すべての管区がこれらの報告書に注目し行動を起こすよう勧める。
  - ・ ACC17で進捗を報告することを求める。

#### 決議 16.04 国連女性地位委員会へ派遣した聖公会代表の声明

本協議会は、第59回（2015年3月）と第60回（2016年3月）、国連女性地位委員会に出席した聖公会代表の声明を受理し、これを全聖公会管区に推奨する。特に、

- ・ 付録1：国連女性地位委員会全聖公会代表団より全聖公会中央協議会に向けた声明
- ・ 付録2：2016年4月にルサカで開催の全聖公会中央協議会に向けた声明

#### 決議 16.05 ジュネーブとニューヨークの国連機関への代表者派遣

本協議会は、

1. 全聖公会中央協議会からジュネーブとニューヨークの国連機関へ代表者を派遣する重要性を認める。
2. 以下を含む国連の様々なプログラムへの全聖公会中央協議会の関与を評価する。  
国連難民高等弁務官、国連人権高等弁務官、世界保健機関とUNAIDS、世界食糧計画、国連気候変動会議（UNCCC）、UNICEF、国連女性の地位委員会、国連先住民族常設フォーラム、国連開発計画（UNDP）、国連環境計画（UNEP）
3. 全聖公会管区がこれらの働きに関与し支援することを奨励する。

#### 決議 16.06 全聖公会家族ネットワーク

本協議会は、

1. 人間関係の深まり、自己認識、所属意識、親兄弟姉妹相互の絆そして和解の源として、神から付与された家族の潜在力を讃えるために構築された「全聖公会家族ネットワーク（IAFN）」の働きを歓迎する。
2. 全聖公会管区に対して下記の事柄の推進に向けて、IAFNに協力するよう呼びかける。
  - ・ 出生届など、人身売買の横行や様々なかたちの搾取に対処するため実用的手段で、子どもの主体性、尊厳、安全を守る。
  - ・ 人間成長の基盤である家族を堅固なものとし、変革と挑戦によって、新たな枠組みを構築する。
  - ・ 家族や地域社会の和解と正義のために尽力する。

## 決議 16.07 聖公会ルゾフォニア（ポルトガル語圏）ネットワーク

本協議会は、

1. 聖公会ルゾフォニアネットワーク（ALN）の設立を祝す。
2. 聖公会ルゾフォニアネットワークを全聖公会のネットワークとして承認する。
3. このネットワークが全聖公会の神の宣教への参与に貢献することを期待している。

## 決議 16.08 地球気候変動への応答

本協議会は、

1. 2015年2月、南アフリカ共和国ボルモエド（Volmoed）で開催された「この世界は私たちの主催者—気候変動に対処する緊急行動・The World is Our Host : A Call to Urgent for Climate Justice」会議における、聖公会首座主教と主教計17名による声明を受理する。
2. 気候変動が次世代の人々と神の被造物すべにもたらす悲惨な結果に留意する。
3. 世界規模の気候変動の危機に対する緊急性と、すべての人々、ことに社会で最も弱い立場にある人々の生活に及ぼす影響を憂慮する。
4. 大齋期間中に励行する祈りと毎月初めの日に行う特別な断食や、大齋中に実施する二酸化炭素削減によって、キリストにおけるすべてのものへの贖いを希求する牧会的、祭司的、預言的行動に全世界の聖公会員が参加できるよう励ます。
  - ・ 地域における環境的、経済的特異性と適切な機会を配慮しつつ、教区、地域社会、信徒の集まりの中で環境破壊を阻止し、その回復を目指す戦略的行動計画を立案し実施する。
  - ・ 二酸化炭素を削減する経済に向けての具体的支援を明確にするため、教会の投資を見直し、その変更も視野に入れる。
  - ・ 教会のすべての運営において、効率的な再生可能エネルギーの利用に取り組む。
  - ・ 神学教育機関や教会が関係する教育施設において、宣教の指標第5項（自然と共生することにより地球のいのちを守り、育む）についての学びを実施する。  
「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」
5. 2015年、パリで開催の「第21回気候変動枠組条約締約国会議（United Nations' 21st Climate Change Conference）」で批准されたパリ協定に応え、政治、経済、社会、宗教に関わる聖公会諸機関での指導者が、気候変動の危機を訴えるように願う。
  - ・ 先住民の自主権、先住権の正当性および先住民の環境と生活維持についての決定を下す前に、この人々の同意を得る必要性を認め、これを支援する。
  - ・ 国連の「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」に呼応し、持続可能な水と食糧、農作生産工程の管理を提唱する。

## 決議 16.09 絶望からの脱出：艱難のなかでの希望

本協議会は、

1. 聖公会他宗教ネットワークから出された「絶望からの脱出：艱難のなかでの希望（Out of the Depths : Hope in Times of Suffering）」の報告書案に感謝の意を表す。

2. 予算と人材次第ではあるが、全聖公会事務所（Anglican Communion Office）からの出版（ウルドゥー語、アラビア語を含む）を要請する。
3. 全聖公会管区での学習を推奨する。

## 決議 16.10 聖公会の諸宗教対話

本協議会は、

1. 事務総長に、常置委員会と協力し、カンタベリー大主教事務局と連絡を密にして必要な資金を確保し、聖公会内に諸宗教関係の委員会を設立するよう要請する。
2. 委員会継続に関し、ACC-18で振り返る。
  - ・ 委員は、全聖公会が他宗教と接触し、対話を通して共通の経験を持つ世界大の宗教と位置づけられるヒンズー教、仏教、ユダヤ教、イスラム教、シーク教に限らず、これ以外の主要な宗教も含まれる。
  - ・ 戦略的目標を設定する。
  - ・ 地域と宗教の双方に適正に働きかける。
  - ・ すべての管区が定期的に委員会の働きについて情報を得る。

## 決議 16.11 インダバの継続

本協議会は、

1. インダバ過程継続の成果を参考にすることを推奨する。
  - ・ インダバは全聖公会の地方教会の交わりを強化する。
  - ・ 相互の深い隔たりゆえに起こる争いを一変させる。
  - ・ 信仰生活と信仰の証しを分かち合う、全聖公会管区間で新たな関係構築を推進するため、仲介役を引き受ける。
  - ・ 聖公会に属する者が、どのように和解について理解し、それを実践しているかを伝えることによって、世界の多くの場所で、共同体や人々との間で勃発する紛争や暴力行為を一変させるための手助けが可能となる。
2. 常置委員会に、全聖公会事務所を通し（情報を得て）インダバの働きに関し、現存する財政・人材・教材などの資源の見直しをするよう要請する。

## 決議 16.12 聖公会支援機構（Anglican Alliance）

本協議会は、

1. キリスト者の災害救援と復旧活動の推進は、
  - ・ この世での、神のご計画に沿った宣教活動に応答するものであり、人類の尊厳、繁栄の相互依存、そして自立を推進する聖公会支援機構の働きを評価する。
  - ・ 聖公会の家族としての教会、宣教団体および弟子教育のネットワークの一部を通して連携を強め、祈り、それぞれの立場、技術そして災害復旧と支援行動を分かち合っている。
2. 福音の物語や全聖公会で起きたすばらしい実例を様々なメディアや技術を用いて、双方向の情報発信によって遠隔地や社会に取り残された地域に伝えるため、全聖公会（そして全聖公会中央協議会組織に関わる人々、責任ある地位にいる人々および組織を代表する人々）のすべての管区が支援機構の様々な活動に加わることを奨励する。

## B. 一致、信仰、職制

### 決議 16.13 聖公会とメソジスト教会の関係

本協議会は、

1. 「聖公会・メソジスト教会の一致と宣教国際委員会」報告書「すべての世界へ—使徒的教会であること、使徒的教会になること（2014）」を歓迎する。
2. 学びと行動、応答のため、この報告書を全聖公会の教会に推奨する。
3. 次の4つの勧告を承認する。
  - ・ AMICUM（聖公会・メソジスト教会一致と宣教国際委員会）が求める、学習と行動、応答のためにこの報告書を全聖公会と全メソジスト教会に勧めるように、世界メソジスト教会協議会（WMC）と全聖公会中央協議会に要請する。
  - ・ 特に、相互陪餐の関係を結ぶことを検討している全聖公会中央協議会と世界メソジスト協議会に、報告書セクション10にある具体例や、先行事例をよく研究して学ぶように勧め、聖公会とメソジスト教会に属するすべての教会が、この報告書のツールキットにある提案を利用するように勧める。
  - ・ 全聖公会中央協議会と世界メソジスト教会協議会は、両教会を俯瞰（ふかん）し、両教会の関係強化のために「聖公会・メソジスト教会国際連携委員会」を立ち上げ、以下の権限を委員会に付与する。
    - a. 両教会の自己理解と相互の関係の一貫性に注意を払う全世界の聖公会とメソジスト教会の関係発展を見守り助言を与える。
    - b. 聖公会とメソジスト教会の合意を発展させるために、どこで合意し、それがどこに存在するのかを未だに理解していない教会に対して、合意促進のために働きかけを実施する。
    - c. 合意に達した協働活動と協働宣教が進展するように奨励する。
    - d. 適切な神学協議の場を設ける。
    - e. この報告書についての両教派の諸教会からの応答を反映させる。
    - f. 両協議会は定期的に報告書を提出する。
  - ・ 両協議会に、他の教派から深い専門性を保持する適切な5名程度の人物を受け入れることを求める。

### 決議 16.14 聖公会と正教会東方諸教会の関係

本協議会は、

1. 聖公会・東方諸教会国際委員会がキリスト論について合意したことに感謝の意を表す。
2. これによって、古代から分裂状態に置かれた両教会が意義ある和解への第一歩を踏み出したと認識している。
3. 合意に向けた今後の対話継続にあたり、東方諸教会に属する人々や他のキリスト者たちが受肉信仰を熟考する機会として捉え、受肉信仰の深い意味としてのキリスト論の合意文書を全聖公会各教会に推奨する。

### 決議 16.15 聖公会と正教会の関係

本協議会は、

1. 「聖公会・正教会国際委員会」が発表した「バッファロー声明『神のイメージと神の似像：希望に満ちあふれた人性論』」を歓迎する。
2. 神性を私たちと共に分かち、私たちが真の人間性に目覚めるために神が人性をとられた。この深遠な意味の探求に対して感謝の意を表す。
3. 全聖公会管区の学び、応答そして受容の材料としてこの声明を推奨する。

## 決議 16.16 宗教改革500周年記念

本協議会は、

1. 2017年の宗教改革500周年記念を意義あるものと認める。
2. 全聖公会がルーテル教会と礼拝を分かち合い、ルーテル教会や他の超教派教会や団体と共同研究を実施し、協働して宣教活動を実施することによって、これが聖公会員を励ましている。
3. 「神の恵みによる自由」を旗印にするルーテル世界連盟の活動に聖公会員が参画することを推奨する。

## 決議 16.17 義認の教理に関する共同宣言

本協議会は、

1. 1999年にルーテル教会とローマ・カトリック教会との間で調印された、「義認の教理に関する共同宣言」の趣旨を確認し、これを歓迎する。
2. 聖公会は、ルーテル教会とローマ・カトリック教会双方と義認の教理について研究してきた。
3. ルーテル教会とは神の義の恵みについて共通理解を得ている。「ヘルシンキ報告書」で合意したように、私たちが義とされ、神の前で義認されるのは信仰を通しての恵みのみである。  
なぜなら、恵みは、救い主イエス・キリストの功德によって得るものであり、人間の業や功績によってではないことを確認する。
4. 「聖公会-ローマ・カトリック教会国際委員会」(ARCIC) が1986年に発表した声明「救いと教会」での合意で、「義認」は救済教理の本質的な側面と教会の役割のなかで見られることを確認する。

## 決議 16.18 聖公会とルーテル教会との関係

本協議会は、

1. 聖公会とルーテル教会との間に、すでに世界の各地で、教会間の壁を越えた関係が存在していることを認識している。
2. 北アメリカ、英国そしてアイルランド聖公会はルーテル教会との間に地域的合意に達するよう進められている歩みを推奨する。
3. 2012年の聖公会・ルーテル教会国際委員会報告「主を愛し、主に仕えるため」において提案されている、両教会が合意した神学理解に基づいたガイドラインを基本として、他の地域においても聖公会の各教会が、ルーテル世界連盟に属する教会との関係を深めることを熱望する。

## 決議文 6.19 叙任奉仕職の相互受け入れ

本協議会は、

1. 連携を密にしている他教派の叙任奉仕職を認め、これを受け入れるため、全聖公会に連なる教会の資料として「IASCUF0報告書『叙任の奉仕職相互受け入れ』」を受理する。
2. 全聖公会管区が他教派との関係体制を整える際、管区レベルでの研究や行動を推進するために、この資料が用いられることを推奨する。

## 決議文 16.20 宣教に形づけられた聖公会

本協議会は、

1. 私たちが分かち合っている聖公会の賜物と責任を、全聖公会に連なる各教会が深く感謝し、IASCUF0の報告「宣教に形づけられた聖公会」を資料として受理する。
2. この報告書を、全聖公会諸管区と全機関に推奨する。

## 決議 16.21 聖公会の機関：賜物、道標、受託責任

本協議会は、

1. 聖公会の4機関（カンタベリー大主教、ランベス会議、首座主教会議、全聖公会中央協議会）を全聖公会各管区が賜物として認め、これ補完するものとしてIASCUF0（聖公会一致・信仰・職制常任委員会）による報告書「聖公会が保持するもの：賜物、道標、受託責任」を受理する。
2. 全聖公会内で、特に4機関に注意を払わなければならない、主導的役割を行使する立場にあるすべての人々に対し、この報告書を勧める。

## 決議 16.22 福音派およびペンテコステ派教会との対話の可能性

本協議会は、

1. 他教派と親密な関係を深めるIASCUF0の働きに感謝する。
2. 福音派およびペンテコステ教会の世界的成長と、世界キリスト者会議（the Global Christian Forum）の組織化に注目している。
3. 「一致・信仰・職制部会」に、福音派およびペンテコステ教会との対話のための潜在的な可能性を探ることを強く促す。

## 決議 16.23 聖書翻訳と改定

本協議会は、

1. 現在、世界の多くに地域で、標準英語を他の言葉に言い換える聖書翻訳が広まっていることに注目している。
2. 全聖公会の各管区に、翻訳のために、どの地方方言の聖書が必要であるかに関し、IASCUF0に助言を求めることを勧める。

## 決議 16.24 共に歩む

本協議会は、

1. 2016年1月に開催された首座主教会議のカンタベリー大主教の正式な報告書を受理した。
2. 全聖公会の首座主教たちが共に歩む約束をしたことを確認した。
3. 全聖公会の各管区が首座主教、カンタベリー大主教、ランベス会議そして全聖公会中央協議会と歩調を共にすることへの適切な道筋を探し続けることに、本協議会も尽力する。

## C. 統治

### 決議 16.25 安全を確保する教会協議会

本協議会は、

必要な基金が確保され次第、事務総長に対し、以下の事項を含む全聖公会の教会内安全ネットワークの報告書“Report of the Anglican Communion Safe Church Network”に基づき

- ・ 聖公会管区における人々の安全について、現在実施されている施策と手続を確認し、「安全を確保する教会協議会 (Safe Church Commission)」の設置を求める。
- ・ 次期全聖公会中央協議会での検討、およびその後の各管区での可能な限りの実施に向けて、全聖公会の管区内におけるすべての人々、特に子ども、若者、弱い立場にある大人の安全の強化についてのガイドラインの明確化を図る。
- ・ 各管区でのガイドラインの効果的な実施を可能にする材料を明確にする。

### 決議 16.26 全聖公会教会安全憲章

本協議会は、

1. 決議 15.09の付託を再確認し、全聖公会管区の教会において、身体的、感情的、精神的な健康維持とすべての人々、特に子ども、若者、弱い立場にある大人の安全の向上を図ることを再確認する。
2. 憲章がこの世界で神のみ業のうちに共に歩むことの実践的な表現であることを認める。
3. 全聖公会の各管区に、憲章の採択、実践するために用いた方策についてACC-17で報告することを要請する。

### 決議 16.27 奉仕職への適性開示に関する議定書

本協議会は、

1. 「全聖公会教会内安全ネットワークの報告書 (Report of the Anglican Communion Safe Church Network)」で示された、全聖公会の教会間で、奉仕職への適性開示に関する協定書を歓迎する。
2. 事務総長に対し、各管区が実施可能な条項の書式をテンプレートにして配布する。
3. 全聖公会各管区に対し、協定書の履行状況を次回の全聖公会中央協議会で報告することを要請する。

## 決議 16.28 安全を確保する教会と2020年ランベス会議

協議会は、

「全聖公会教会安全憲章 (Report of the Anglican Communion Safe Church Charter)」のセッションを、2020年開催のランベス会議のプログラムのなかに組み入れる必要性を考慮するよう、カンタベリー大主教に要請する。

## 決議 16.29 情報伝達

本協議会は、

1. デジタル時代における情報伝達の決定的な役割を認める。
2. 聖公会の出来事を全世界に伝達する新たな方法を探るため、「通信部」を支援することを常置委員会に要請する。

## 決議 16.30 翻訳

本協議会は、

1. 主要文書の翻訳についての決議 15.30を再確認する。
2. 事務総長に対して、聖公会員すべてにとって重要な文書および他の媒体について、効率的かつ費用対効果が適切なフランス語、スペイン語、ポルトガル語、スワヒリ語の翻訳サービスを推進させることを要請する。
3. 次回常置委員会でこれを報告することを要求する。

## 決議 16.31 全聖公会中央協議会の戦略計画

本協議会は、

1. 常置委員会によってなされてきた戦略計画実施を感謝する。
2. 常置委員会が、全聖公会中央協議会、管区、全聖公会および各委員会に助言を求めながら、この働きを向上させ続けるよう奨励する。
3. この戦略的計画が2017年5月1日までに完了するよう強く求める。
4. この計画達成に関して「Compass Rose Society」の協力を歓迎する。

## 決議 16.32 セイロン教会

本協議会は、

1. セイロン教会総会決議により、カンタベリー大主教の管轄から独立して、教会による教会自身を規制する法規を制定し、統治するという希望に注目している。
2. この働きを広く協議し推進する、セイロン教会の協議会設立を歓迎する。
3. 自立に向けてのセイロン教会の歩みに対して、全聖公会中央協議会が援助することを確認する。
4. とりわけ、長期の内戦後に現れた和解の働きに、心から関わりを望むセイロン教会の特別な状況に鑑みて、教会の将来に関わるどのような要求にも配慮が必要であることを常置委員会に求める。

### 決議 16.33 全聖公会の二酸化炭素排出量の削減

本協議会は、

1. 全聖公会の様々な会議開催のため、参加者の移動によって起こる高い二酸化炭素排出量に注意を払っている。
2. 近年のインターネットによる会議開催に感謝し、二酸化炭素の排出量削減のため、できる限りこの方式を今以上に用いることを望む。
3. 会議開催で節約した現金を、世界の難民危機や、紛争や干ばつの結果、困難な状況下にある人々の現状を発信することに尽力している聖公会支援機構に振り分けるよう財務委員会に強く求める。

### 決議 16.34 聖公会青年ネットワーク

本協議会は、

1. 神の宣教における青年の重要性と、深く断絶の印が刻まれているこの世において、青年が福音を証ししていることを祝する。
2. この世に奉仕するため、青年の熱意、創造的な働き、そして宣教への確固たる信念と洗礼の約束を忠実に励行していることに敬意を表する。
3. あらゆる意味で、全聖公会中央協議会の組織や活動に、より多くの青年が関わる方策が求められる。
4. 全聖公会各管区に対して、この目的のために霊的、財政的、建設的努力を提供することによって、聖公会青年ネットワークの刷新に関わる人々を援助することを強く求める。
5. この決議を実施するために、事務総長がACC-16参加の青年メンバーと話し合うことを求める。

### 決議 16.35 全聖公会中央協議会青年代表

本協議会は、

現在、首座主教会議の常置委員構成が地域代表制を反映しているように、世界5地域（アフリカ、南北アメリカ、アジア、ヨーロッパ・中東、オセアニア）から青年1名を加える、全聖公会中央協議会定款改定の検討を常置委員会に求める。

### 決議 16.36 全聖公会中央協議会における指導の継続性と活性化の確保

本協議会は、

1. 常置委員会の委員および委員長、副委員長の継続性と刷新両面の重要性を認識している。
2. 法律顧問に助言を求め、常置委員会が次のように定款改正を考慮するよう要請する。
  - ・ 委員長任期と副委員長任期をずらすことにより、委員長、副委員長双方が全聖公会中央協議会において同じ任期で選ばれることがなくなる。
  - ・ 常置委員も期差任期で職務を遂行することが可能となり、全聖公会中央協議会の連続性と刷新性の両方が可能となる。
3. ACC-17での定款改正承認のため、ACC-17参加者に対して、事前に改正案を配布することを本協議会は要請する。これによって、当初の目的通りの改正が円滑に実施されることになるであろう。

## 決議 16.37 全聖公会事務所およびランベス会議の資金

本協議会は、

1. 決議 12.33を再確認し、全聖公会各管区が、全聖公会に結ばれているとの意識向上を促し、全聖公会に関わる運営に必要な資金を得るために「アングリカン・コミュニオン・サンデー」の制定を全聖公会の各管区に要請する。
2. 5月26日の「主教カンタベリーの聖オーガスチン日」に最も近い主日を、全聖公会のために祈る「アングリカン・コミュニオン・サンデー」とすることを、全聖公会各管区に対して求める。
3. 全聖公会各教区に、2020年開催のランベス会議参加者に必要な経費予算化を要請する。
4. 決議 10.27および 15.22を再確認し、全聖公会の管区に、全聖公会中央協議会開催のための財政的支援を要請する。
5. ACC-17の会議諸費用削減のため、常置委員会に対して日程短縮の検討を求める。

## 決議 16.38 アングリカン・ कांग्रेस

本協議会は、

1. 信徒、若者、女性の参加を強く求める「アングリカン・ कांग्रेस」は、全聖公会内で共に生きる聖公会の相関性を育み、多様化した世界における弟子養成計画を援助するものと信じる。
2. ACC決議 10.31、11.14、12.35、13.13に記された「アングリカン・ कांग्रेस」開催要請を再確認する。
3. 2025年末までに、全聖公会中央協議会議長および事務総長が、全世界を網羅する「アングリカン・ कांग्रेस」開催の実現可能性を探ることを要請する。
4. 常置委員会に対しては「アングリカン・ कांग्रेस」の具体的な計画進捗状況を定例委員会で報告し、常置委員会後、それを全聖公会中央協議会構成員にも直接報告することを求める。

## D. 連帯

### 決議 16.39 ブルンディとの連帯

本協議会は、

1. この地域すべての神の民に対し正義、平和、和解への努力を継続しているブルンディ聖公会への連帯と支援を表明する。特にブルンディ聖公会首座主教および他教派キリスト者の指導的な役割に感謝の意を表す。
2. 一致、平和そして安定のために活動するよう、この地の人々に求める。ブルンディ人すべてが、自国の持続可能な平和に向けて包括的かつ真摯な対話を実施するよう、ブルンディの利害関係者を励まし、「真実と和解委員会」のプログラムを支援する。
3. 難民および住まいを失った人々（IDP）に対して実施中の人道支援に対する関心を喚起し、愛する人を失った遺族に対する悔やみを表明し、すべての党派に対し暴力の停止を求める。

## 決議 16.40 南スーダン支援

本協議会は、

1. 南スーダンにおける平和と和解のために祈る。
2. グウィン・カレッジ主教のために祈る。

## 決議 16.41 聖公会南アフリカ管区への支援

本協議会は、

特に聖公会南アフリカ管区首座主教および他教派のキリスト者たちの指導的な役割に感謝の意を表し、この地域におけるすべての神の民の機会均等への「新たな戦い」の継続に、聖公会南アフリカ管区への連帯と支持を表明する。

## 決議 16.42 パキスタンとの連帯

本協議会は、

1. パキスタンでの宗教的少数派に関する決議 15.28を再確認する。
2. パキスタンで迫害を受けているすべての教会との連帯を表明する。

## 決議 16.43 アシア・ビビ

本協議会は、

1. パキスタン国内の「不敬罪295c」により起訴され投獄中のアシア・ビビ氏と連帯する。
2. ビビ氏のために祈ると共に、事件の再捜査と彼女の釈放を要求する。
3. 同法による他の被害者とも連帯し祈る。

## 決議 16.44 全聖公会中央協議会定款条項

本協議会は、

1. 定款27条3項にもとづき、新たに12条7項として以下の改正を承認する。  
12条7項：理事会が適切と判断した場合、年次総会を含む常置委員総会は、電磁的手段（インターネット会議）で開催してもよい。本協議会は、常置委員会に、この形式での会議を実施するために必要な規程もしくはガイドライン作成を求める。
2. 常置委員会は「英国会社法」に準拠してこの改正規程を施行する。  
注一全聖公会中央協議会は、2006年に制定され、2009年1月に施行された英国会社法による「Private Limited Company・非公開有限責任会社」として認可されている。

## 決議 16.45 謝辞

本協議会は、この会議が参加者全員にとって非常に実り多きものとするために、丁重に心を込めてご奉仕して下さった方々に、議長、副議長、事務総長に対して感謝状を送るよう要請します。

会議に陪席くださったザンビア共和国エドガー・チャガワ・ルング大統領、イノンゲ・ウィナ副大統領、ケネス・カウ ندا初代大統領に感謝の意を表します。

## 中央アフリカ管区

ルサカでの全聖公会中央協議会を閉会するにあたり、この会議に携わった全員の心が感謝と喜びに溢れていることを申し上げます。私たちは、すばらしい愛情、寛容な態度、おもてなしを受けました。私たちを受け入れ、会議期間中、側にいてお世話してくださったすべての信徒、聖職、主教、また、ボツワナ、マラウィ、ジンバブウェの国々やザンビア各地から開会聖餐式と祝賀会に参加してくださった方々に深く感謝申し上げます。開会聖餐式とそれに続く祝賀会は、私たちに中央アフリカ聖公会に連なる人々の純粋な喜び、熱意そしていのちを知る機会を与えてくださいました。

アルバート・チャマ首座主教、デイビッド・ンジョヴルサカ教区主教と教区事務所職員、中央アフリカ管区の全主教に感謝します。管区総主事ウィリアム・ムチョムボ主教、管区事務所職員、ザンビア聖公会協議会職員に感謝します。何ヶ月もかけてこの会議のために責任を担ってくださった現地のACC-16実行委員会に多大なる感謝を申し上げます。

## ルサカ聖十字大聖堂

チャーリー・トーマス聖十字大聖堂首席司祭、大聖堂協議会、大聖堂参事会、聖十字大聖堂信徒に計りがたいほどの大きな感謝を申し述べます。また、ルサカ大都市圏聖公会責任者エマヌエル・チコヤ司祭とチャプレンチームに感謝します。大聖堂は私たちの祈りの場、会議の場として聖なる空間となりました。

## 歓迎と支援

私たちを歓迎しお世話いただき、アットホームなおもてなしと設備を十分に整えてくださり、輸送、医療、おもてなし、広報、手続き、安全、開会聖餐式、土曜会議実施チームと小委員会など、多くのグループに心より感謝いたします。

## スチュワード、アッシャー、ボランティア

会議期間中、始終注意深く、快活に私たちを様々な面で支えてくださったスチュワード、アッシャー、ボランティアの方々に感謝します。

私たちは、「弟子養成計画」と「グリーン・ヤング・アングリカンズ」を主題としたプレ全聖公会中央協議会青年会議から始まり、礼拝や土曜会議に至るまで、若者たちが本協議会にもたらした熱意と活気を肌で感じ、大きな恩恵を受けました。感謝の返礼をいたします。

## 聖書研究

本協議会でルツ記を用いて聖書研究を企画してくださった人々に感謝申し上げます。毎日の会議が聖書に根ざしたものとなりました。

## 宣教の出会い

本協議会第2日曜日の喜びに溢れた礼拝へ私たちを温かく迎え入れてくださり、宣教と弟子養成計画について話し合いの時を与えてくださった会衆の皆様に多大な感謝を申し上げます。

## 聖歌隊

本協議会中の開会聖餐式、日々の礼拝、夕の集会、土曜会議そして私たちが訪問したそれぞれの教会で神を賛美し、私たちのために過分の奉仕をしてくださった聖歌隊に対して特別に感謝します。

## ホテル経営者と従業員の方々

私たちの物質的要求に応え、健康に注意深く配慮くださったタジ・パモツヂホテルとサザン・サン・リッチウェイホテルの経営者と従業員に感謝します。素晴らしい料理とおもてなしをありがとうございました。

## 感謝の意表明

本協議会は、この会議と全聖公会中央協議会の働きに貢献してくださったすべてのの方々、ことに全聖公会中央協議会総裁ジャスティン・ウェルビー・カンタベリー大主教の働きを神に感謝します。カンタベリー大主教による本協議会を通しての貢献、開会聖餐式での説教、弟子養成計画、宗教から生まれる暴力と気候変動についての演説、首座主教会議報告、そして期間中、様々な会合へ自由に加わっていただき心から感謝申し上げます。ご参加くださったキャロライン・ウェルビー・カンタベリー大主教夫人にも感謝いたします。

今期をもって任期満了となる議長ジェームス・テンガテンガ主教、副議長エリザベス・ペイパー司祭の聖公会中央協議会への忠実な働きに深く感謝いたします。

全聖公会事務総長ヨシア・イドウフェアロン大主教、常置委員の方々、ことに今期で任期を終えられる方々、ヘレン・ビギン氏、ジョアニルド・ブリティ教授、イアン・T・ダグラス主教、サラ・マクニール主教、サムエル・ムクンヤ氏そして2012-2016聖公会財務委員、本協議会の法律顧問ダレン・オリバー氏、そしてジョン・リー司祭の継続的かつ貴重な支援に謝意を表します。

## スタッフ

優れた調整能力と困難な作業を担うことによって、本協議会のプログラム内容が十分に練られ、効果的な会議運営へと導いたスティーブン・ライオン氏に特にお礼を申し上げます。

全聖公会事務局の全職員、ランベス・パレス、この会議の準備を手伝うために選ばれ、会議中大変な働きをしてくださった職員に感謝します。

## 全聖公会中央協議会メンバー

本協議会中に特別な責任を担われた協議会の以下の方々に感謝します。決議草案委員会委員長ターボ・マクゴバ首座主教と委員、ヘレン・ビギン氏、ジョアニルド・ブリティ教授、イアン・T・ダグラス主教、ローズ・ハドソン・ウィルキン司祭、スザンヌ・ローソン氏。

## 他教派からの参加者

8つの教派からの参加者の存在は私たちに大きな祝福を与えてくれました。他教派から参加された方々は、私たち聖公会の家族と長い間共に過ごし、会議に活力を与え、会議の働きに対して様々な面で貢献してくださいました。

世界教会協議会（WCC）代表ナターシャ・クルカッハ氏、ローマ・カトリック教会代表アントニー・キュラー神父、ルーテル世界連盟代表マティ・レポ主教、ギリシャ正教会総大主教座代表ジンバブエ首都圏セラフィム総大主教、全世界キリスト者協議会代表フェミ・アデレイ師、世界改革派教会代表クリス・ファーガソン師、コプト正教会代表アンジェロス主教、ユトレヒト同盟復古カトリック教会代表ダーク・ジャン・シューンハーレム教区主教に敬意を表します。また挨拶状をお送りくださったキリスト教一致推進評議会議長官カート・コッホ枢機卿、ルーテル世界連盟総主事マルチン・ユンゲ師、ギリシャ正教会バルトロマイ総主教、ジョリス・ヴァーキャメン・ユトレヒト大主教に感謝します。

## ネットワーク

本協議会後半は、全聖公会ネットワーク代表者の参加によって豊かなものとされました。この人々のプログラムへの貢献を心から感謝します。何にもまして、私たちが共に過ごした本協議会を通して、多くの恵みの賜物をお与えくださった神に栄光を帰し、賛美をささげます。本当にありがとうございました！ Zikomo kwambiri !

(中村豊訳)

## 参加者

### **President**

The Most Revd & Rt Hon Justin Welby

### **Chair**

The Rt Revd James Tengatenga

### **Vice Chair**

Canon Elizabeth Paver

### **Aotearoa, New Zealand and Polynesia**

The Revd Jacynthia Murphy

Ven Sepiuta Hala'api'api

### **Australia**

The Rt Revd Dr Sarah Macneil

Mr Garth Blake

The Ven Arthur Copeman

### **Bangladesh**

The Rt Revd Samhel Sunil Mankhin

### **Brazil**

Professor Joanildo Burity

### **Burundi**

The Rt Revd Eraste Bigirimana

Mrs Goretti Wege

### **Canada**

The Rt Revd Jane Alexander

The Ven Dr Michael Thompson

Ms Suzanne Lawson

### **Central Africa**

The Rt Revd David Njovu

Mr Arthur Morris Tendayi Mutsonziwa

### **Central America**

Mr Jeroham Melendez

### **Congo**

The Revd Dr Yossa Way

Mr Jean Bosco Tshiswaka Kabeya

### **England**

The Rt Revd Stephen Cottrell

The Revd Rose Hudson-Wilkin

Canon Margaret A Swinson

### **Hong Kong**

The Most Revd Dr Paul Kwong

### **Indian Ocean**

The Revd Canon Samitiana Jhonson

Razafindralambo

Professor Michel Razafiarivony

### **Ireland**

The Revd Dr Maurice Elliott

Mr Wilfred F Baker

### **Japan**

The Rt Revd David Eisho Uehara

[Revd Paul Tolhurst - Translator to the Bishop]

### **Jerusalem and the Middle East**

The Rt Revd Michael Lewis

### **Kenya**

The Rt Revd Joel Waweru

The Very Ven Canon Philip M Obwogi

Mr Peter Gachuhi

### **Korea**

The Rev. Stephen Si-Kyung Yoo

### **Melanesia**

The Revd George Elo

### **Mexico**

Ms Maria Dolores Huerta

### **Myanmar**

The Revd Canon Saw Maung Doe

### **Nigeria**

The Most Revd Ikechi Nwachukwu Nwosu - absent

The Ven Dr Abraham Okorie - absent

Mr Abraham Yisa - absent

### **North India**

The Rt Revd Dr Prem C. Singh - unable to attend

Mr Prem Masih - absent

The Revd Nigel Pope

### **Pakistan**

The Rt Revd Alwin Samuel

Ms Shunila Ruth

**Papua New Guinea**

The Rt Revd Allan Migi - unable to attend  
[Plus 1 lay delegate to be appointed]

**Philippines**

Revd James Ngala Boligit

**Rwanda**

The Rt Revd Augustin Ahimana - absent

Revd Charles Kubwayo - absent

Mrs Lucie Nzaramba - absent

**Scotland**

Mr Alistair Dinnie

**South America**

The Rt Revd Nicholas Drayson

**South East Asia**

The Ven Canon Moses Chin

Mr Charles Leong

**South India**

The Rt Revd Thomas K. Oommen

The Revd P Isaac Varaprasad

Mr C Robert Bruce - absent

**Southern Africa**

The Most Revd Dr Thabo Makgoba (also a member of the Primates' SC)

The Revd Jerome Stanley Francis

Ms Louisa Lette-Mojela

**South Sudan and Sudan**

The Most Revd Dr Daniel Deng Bul Yak

The Revd Bartholomew Bol Deng

Mrs Harriet Baka Nathan

**Tanzania**

The Rt Revd Dr Dickson Chilongani - unable to attend

The Revd Can. Capt. Johnson Chinyong'ole

Mrs Judith Ghemela

**Uganda****The Episcopal Church**

The Rt Revd Dr Ian Douglas

The Revd Gay Jennings

Canon Rosalie Simmonds Ballentine

**Wales**

Mrs Helen Biggin

**West Africa**

The Very Revd Dr Herman Browne

Mr Kwame Asiedu-Basoah

**West Indies**

Revd Reid Simon

Mr Clifton Nedd

**Co-opted Members**

The Revd Canon Ulla Monberg (Diocese in Europe)

Rt Revd Dhiloraj Canagasabeyn (Church of Ceylon)

Ms Ncumisa Ngolwethu Magadla (Youth)

Miss Fungai Catherine Ngangira (Youth)

**Primates Standing Committee Members**

The Most Revd & Rt Hon Dr John Holder

West Indies

The Most Revd Dr Richard Clarke Ireland

The Most Revd Philip Freier Australia

The Most Revd Dr Mouneer Hanna Anis

Jerusalem & Middle East - absent

The Most Revd Dr Thabo Makgoba

Southern Africa

Ecumenical Participants

Ms Natasha Klukach World Council of churches

HG Bishop Angaelos Coptic Orthodox Church

HE Metropolitan Seraphim of Zimbabwe

Ecumenical Patriarchate

Fr Anthony Currer Roman Catholic Church

Bishop Ivan Abrahams World Methodist Council - unable to attend

Revd Chris Ferguson World Communion of Reformed Churches

Bishop Dick Schoon Old Catholic Churches of the Union of Utrecht

Bishop Matti Repo Lutheran World Federation

Dr Joseph Mar Thoma Metropolitan

Malankara Mar Thoma Syrian Church

Dr Femi Adeleye Global Christian Forum

---

第16回 全聖公会中央協議会決議文  
2018年5月20日発行  
発行者 日本聖公会  
発行所 日本聖公会管区事務所  
翻 訳 主教 中村 豊  
430部発行

---